午後１時零分再開

○議長（堀尾俊浩君）　休憩前に引き続き会議を開き、一般質問を続行いたします。

次に、16番実藤輝夫議員の質問を許可いたします。16番実藤輝夫議員。

（16番実藤輝夫君登壇）

○16番（実藤輝夫君）　16番実藤輝夫でございます。昨今の国際情勢、そして日本、全世界を取り巻く話題は、大きく内憂外患といえる２つに絞られると思います。

一つは、未曽有の災害、全世界を通じて温暖化傾向の中で非常なる猛威をふるっております、この自然災害というものを私たちも平成29年に経験いたしました。

もう一つは、御承知のとおり、コロナウイルスの問題であります。これは内面に潜む目に見えない恐ろしい敵であります。きょう、あしたも含めて国、県、市もこの対策に躍起になり、そして市民、国民を守っていく諸施策を出していかなければならない非常に厳しい状況に追い込まれております。

こういった中で私、今回再起し６月から３回、一般質問をしてまいりました。市長に問う、朝倉市の現状と課題、そして展望とその施策、毎回タイトルとしてこれを出してまいりました。３回の定例議会の一般質問でいろんな問題を提起してきましたが、その中で私は議会議員としてどのような対応をしていくべきなのか、活動していくべきなのかというのを問うてまいりました。

皆さん、議会と行政は車の両輪のごとしという言葉があります。これを知らない議員はいないと思いますが、職員もそうだと思います。しかし、この意味を十分に御承知でしょうか。通常言われておりますのは、この議会でも再三そういう言葉が出ましたが、議会と行政が一緒になって手を携えて頑張っていく車の両輪であるという形で触れてまいりました。果たしてそうでしょうか。この定義は二次的には間違っていません。しかし、一義的には、均衡と抑制という近代憲法の中に生み出された一つの制度であります。とりわけ住民代表の市長と住民代表の議会議員、二元代表制をとりながら均衡と抑制という形でやっていく、これが一義的な意味であります。

今、疑問を持たれている方がこの中におりましたら、世界史の中の近代憲法を考えてください。今日あらゆる国で近代憲法が採用されておりますが、その中の骨子は17世紀、18世紀におきます巨大化した国王が国民を虐げ、そしてそれらの恣意のままに行ってきた。その反動として国民が立ち上がり、革命を通じて近代憲法をつくってきた。その骨子は統治行為、そしてまた国民の基本的人権を守るという、この２つを標榜してできましたのが近代憲法です。

このたび昭和24年に施行されました日本国憲法におきましても、その精神が問われました。国会におきましては議院内閣制がとられましたが、地方自治体におきましては二元代表制がとられてまいりました。まさに、国王の肥大する権力を三権を分立して均衡と抑制という一つの制度のもとに国民の権利を守っていく、これがまさに私たちに課せられた使

命であります。

私は、この趣旨にのっとり、議会議員として今後も歯に衣着せぬものを市長に申し、そして行政の携わる幹部の皆様に私なりに提言し、そして市民に報告し、一体となってこの難局を乗り切っていきたいと考えております。まさに、二義的な車の両輪のごとくお互いを助け合いながらというのは、決して間違っていない二次的な意味であります。しかし、それは行政を支えるという意味では私も大いに結構と思いますが、支えることとそんたくすることは違います。

きょう、私はこの一般質問に当たりまして、貞観政要という源頼朝や徳川家康が愛読書としてその内容を実践してきた唐の太宗が貞観の治世といわれる、これをぜひとも林市長には読んでいただき、今後どういうふうな市政に当たるべきか。私は、この前の12月に述べましたように、ラグビーの言葉で言えばノーサイド、闘いが終われば、ともに抱き合い、ともに握手をして健闘をたたえ、あすに向かって励ましていく、ともに闘っていく、こういった姿勢で今おります。

私の言動は議会議員の中にも、あるいは市民の中にも、ややもすると厳しさの余り、林市長の足を引っ張り、おのれの私利私欲でものをいっているというような話も市民の中から聞きました。言語道断。私もそれなりの経験をして現在72歳になります。残された私の政治生命をこの厳しい難局に向かって頑張ってまいりたい、このような決意をこの場で述べまして、以下、質問席より質問を続けてまいります。よろしくお願い申し上げます。

（16番実藤輝夫君降壇）

○議長（堀尾俊浩君）　16番実藤輝夫議員。

○16番（実藤輝夫君）　通告しております今回の３月議会というものは、当初予算を審議し、そしてまた新しい令和の２年に向かって旅立つ重要な議会であります。この間にありまして私を含め、10人の議員が一般質問をするということで私も最古参の議員としてはうれしく思っております。

市長、12月の私の一般質問を振り返ってみますと、朝倉市のビジョンについては３月定例議会にお答えしますということで明確な、私が望んでいるようなあすの朝倉市を考えていく、希望を持たせるようなビジョンは述べていただけませんでした。

今回いろいろ述べるよりも当初予算の最初に書いておりますように、当初予算に見る市長の将来ビジョン、これはこの前、私らに手渡されまして、実際に予算審議というのは各課説明が中心で全体的なことはその一部としか現在とられておりません。これが数年の経過です。でも、やっぱりこの当初予算に市長の思いがどれだけかかっているかというのが、私が数十年経験してきた議会生活の一つであります。幾多の難局に向かってまいりました。

それで、きょうは、これに当たりまして細かい各課説明を中心としたのは予算委員会でありますけれども、市長がこれを作成されるに当たってどういう……。具体的な話です。総論の話はいっぱいあります。もう総論の話は聞き飽きたというのが、ここの全協にも出

されました資料です。だから、具体的に現状をどう捉えて、そしてどういうふうな朝倉市をつくろうとしているのか。そして、具体的にそういったものをまさに３月議会のこの場でお知らせ、御答弁いただきたいと思います。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　12月議会で議員から御質問があったただいまの件につきまして、令和２年の所信でも申し述べたところでございます。

具体的に申しますと、目指す未来の朝倉市の姿と。これは市民の皆さんがとにかく安心して暮らしていけると、そういう朝倉市を考えているということでございます。そして、子どもたち、それから働く世代、それから高齢者それぞれの世代にわたって将来にしっかりと、朝倉市に住んでよかったと、夢が持てると、安心して暮らせると、こういうことも含んでいるところであります。

そしてまた、朝倉市を考えたときに福岡県内の人口減少がいよいよ本格化をしてきている地域が多数あると、その中に朝倉市が当然ございます。こういった状況の中で朝倉市が持っております豊かな自然、それから基盤となる産業、子育てのしやすさといったポテンシャルを、住んでいただける、住むことを選んでいただける朝倉市にしていきたいと、そのポイントがそこにあるんだろうというふうに考えているところであります。

具体的には、災害から住まいの再建を加速させて復旧・復興を一日も早く実現すること、これが最優先であるということであります。そして、基幹産業であります農業の将来に明るい光をともすため、さらなる新規就農支援や被災地の営農計画作成に全力を尽くしていくということであります。そして、少子化対策については、これまでやってきました施策をさらに踏み込んだ実効性ある取り組みとして、縁結び事業やお試し移住などに取り組み、しっかりＰＲをしていくと。そして、ダムや自転車を切り口に観光振興を図り、経済の活性化を図ること。そして、厳しい財政状況ではありますが、これらを実現するため、財源確保と組織の改革に取り組んでいきたいと。被災地朝倉の現実を直視して着実に努力を重ねていくこと、このことこそが今一番重要であると、そのように考えておるところであります。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　さっきも言いましたように、別にあなたの足を引っ張ったり、文句を言うつもりはないんですよ。今の話は総合戦略の中にも載っているし、当初予算の基本方針の全体にも載っています。だから、恐らく傍聴席の方は何人来られたかわかりませんが、今のは教科書で言うと総論的な話なんですよ。これは何回も聞いていまして、じゃあ具体的な話というのがこの当初予算の概要に出てくるんだろうと、そして予算書に入っているわけです。今の話は具体性がほとんどない、こうあります、こうしたい、ああします、こう図りますという、もう幾つも何冊ももらっている資料なんです。

私が言っているビジョンというのは、子どもたちが、10年後はどんな朝倉市になるの、

それのためにどういうことをしていくのと。例えば、先ほどから出ていた企業誘致が可能か不可能かは別として、みずから私はこういう企業を誘致したい、あるいは観光行政において自分はこういう観光をつくっていきたい。例えば、私は今、議員という立場におりますので、先ほど言いましたようにあなたがこれから先、５年でも10年でも市長を望めば、私はあなたが市長を続けられる、そういうふうに思って質問をいたしております。されるかどうかはわかりませんけれど。私はそういう気持ちはありません、今は。謙虚に私は質問できる。

そうすると、私は市長選のときに観光、歴史回廊をつくろうという形で博物館から黒川、美奈宜の杜から黒川へ行って水の文化村からおりてきて、そして朝倉からと、そういう一つの構想を出しました。残念ながら平成29年度に、がさっと奈良ヶ谷川が壊れて道路も決壊しまして、残念ながら今は復旧に当たっているわけですが、そういった一つの計画。そのときに何かを呼んでくる。

喜多郎という人と親しい私の友人がいまして、そこで会っていいよと、協力してくれると。日本では余り有名じゃないかもしれんけれど、中野副市長ももう知ってはると思うけれども、アメリカでは相当有名でグラミー賞にもノミネートされたぐらいの人ですよ。それが来ると、黒川に来てもいいよというぐらいまでとって、美奈宜の杜を中心とした一つの観光ルートをつくっていこうと。自分は音楽のほうで協力するとまで、あすこのそば屋さんで話して、そして共星の里でやりました。そういったものをぼーんと打ち出す、それは一つです。こういうのをやりますよと。そして、県民、国民に訴えて、朝倉市はこういうところですよという内部と外に打って出る２つのものが、私は一つのビジョンとしてあるべきではないかというふうに――今のは一例です。それを私もここでとうとうと述べるつもりはありません。

だから、市長がこれから先、今先ほど傍聴者の人が聞いていて、ほとんど総合戦略プラスアルファの誰か側近の人が書かれたマニュアルを読まれているんですよ。読むのは結構だけれども、私は全然原稿を使っていませんので。単なる一議員です、私は。これからも資料だけに基づいて話をしていきます。市長もそんなもの読まないで堂々と自分の信念を、私はこうやりたいんだというのが今、求められている地方自治体のトップですよ。

ある近隣の長もこの前、地方創生会議の中である人が言った言葉なんですけれど、それがここに載っているんだけれども、今うちのところは人口は増加はしていないけれど、横ばいか少し減少ぐらいですと。みんな元気よくまちづくりに頑張っていますと。そういう言葉を述べていますと紹介されています、この中では。市のほうから預かった、もらった地方創生会議の議事録の中に。だから、そういった言葉をやっぱり市民は期待しているんじゃないですかね。この中には市長を支える強力な議員さんたちが多数ですから、その人たちといろんな話をして、そしてこれをやりましょうというふうに話を持っていかないと、みんな市民は少なくとも私も含めて朝倉市は今後どうなるんだろうか、今後何をするんだ

ろうかという話が今出ています。

だから、そういった意味でも市長、２年間やったらもう十分です。だって県会議員を７期もやっているわけですから、特に地元出身としてやっているわけですから。落下傘じゃありませんから。だから、十分にこの地元のことを知り尽くしている現在の市長が２年間経験して今度、当初予算を含めて新しい朝倉市のビジョンを打ち出してくるんだろうと思っていましたら、ここに書いてある当初予算の概要、皆さんも見られたと思いますけれど、これを見られて、おお、すごいなあというのが一つでもありますか。私には見えない。

そして、これは１期生の方もそうなんだろうと思うし、行政の方も単発でやっているから、縦割り行政だから。私も経験で100以上の市に今まで行政視察に行きました。今８期ですけれど、28年の間に大体、年２カ所か３カ所行っていましたから100近く。それは、ほとんどこういうものを書いていないところはないんですよ、施政方針で。ただ朝倉市には朝倉市の特徴があるだけ。だから、総務委員会なんか特にそうだったんだけれど、そういうことを勉強しに行きますから、そこに行けばそういうものをもらうわけですよ。そうすると、やっぱりここはこういうことをやっているなあと。朝倉市は足らないな、こういうことはやっていないなというのを勉強してくるわけ。そして、こういうのに出てくるわけ、新規として。

そうすると、これを見ると、ほお、朝倉市はこんなことをやっているなと――けちをつけているわけじゃない。現実的に目新しい対外的に打ち出していくようなものをつくらないと、同じレベルでの朝倉市はこういう状況でやっていますだけでは、決して国民、県民にはアピールできない。後でも人口問題でやりますけれど、転入数が非常に少ない。多少は来ているけれど、転出数のほうがはるかに多い。こういう状況が続いている、ここが人口減少問題の一つでもあると。社会増減の減と。だから、市長、もう一度、自分の思う朝倉市のビジョン、私が今具体的に言ったようなことを考えておられるのかどうか、答弁してください。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　現在、市長に就任をいたしまして４月で２年ということになります。未曽有の災害に遭った朝倉市を早くもとに戻す。いや、それ以上に安全・安心な朝倉市をつくっていくと。そして、自然災害が多くなった現在、災害に強い、地域で地域と一緒に防災に強い朝倉市をつくっていくといったことをまずは主眼として今日までやってきたところであります。そして、議員が御指摘になってこられております人口減少問題、社会減の問題等を今言われましたけれども、これについても深い強い危機感を持ってやってきているということであります。

そこで、今の御質問でありますけれども、市長の考え方をもう少しいろんなところで言ったらどうかというようなふうにも私はちょっと今解釈をしましたので、いろんなところに呼ばれていって挨拶を大体、市長は求められますので、こういった機会を利用して朝倉

市の発信、すなわち災害から一日も早く復興をして、そして具体的にこれから少子化問題あるいは観光振興と、そういったことについて発言を特に最近は強くさせていただいているという次第であります。

朝倉市の政策については、これといったことがないという今御指摘でありますけれども、今まで積み重ねてきた少子化対策とか健康の問題とか、そういったものは蓄積がございますので、これに加えて朝倉市の特色を出して、つくって、そしてこれをいろんな形で情報をしっかり出していくということで今までやってきたということであります。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　勘違いされていますね。私、４番目に市政報告についてと書いているんですよ。市政報告についてと。ここで市長が今２つにとりましたという話はします、そこで。今は、ビジョンを市長はどう考えるかということを私は聞いているの。それをどうやって市民に知らせるか、対外的に知らせるかというのが４番目の項目ですよ。だから、ここは市政報告についてというふうにしか書いていないでアバウトに書いてある。それを論議しながらやっていこうと、いろんな考え方を持ってあるでしょうから。これは何十という項目となりますからね、これだけでも。そのどれをプライオリティー――優先順位にするかという話が４番目。だから、それはそれでいい、地方創生会議もそれを望んでいるから。これを読むと。そういう文面。いろんな意見が出ているけれど、結局はＰＲの話。情報収集と提供の話が中心と。総務部長、そういうことですね。これをちゃんともらっていて全部読みましたから。

それで、恐らく今の話でもってそういうふうに政策を訴えますと、その政策は何ですかち私、聞いているんだけれども。今までの積み残しを積み上げていく、それはどこの市でもそう。例えば、うきは市と筑前町というのが２つ、そばにあって非常に力強く今メディアも取り上げ、市民や町民たちものっています。１番は糸島、２番は福津、人口がふえているのは。３番目、横ばいかちょっとぐらいはよいほう。だから、政策を論じるということだけれども、これ以上また同じことの繰り返しで今さっきのような答弁だと政策を訴えていきますと。その政策は何ですかと聞いているのにビジョンを訴えていきます。ビジョンとは何ですかと聞いているけれど、また堂々めぐりになるので、これはずうっと私の職責として一般質問で……。

これは傍聴に来られている方に言っておきますが、私、３カ月に１回なんですよ。市長とこうやって話すのが。今の議会のあり方で市長とこうやって話すことはありません。これは一般質問しなければ、もう３カ月過ぎて次の６月まで市長とこうやって話すことはありません。市長の考え方を直接聞くことはありません。酒の席上で久しぶり、ちょこっと、そんなのはあります。いや、それではいかん。公的な場で堂々とあすの朝倉を語り合う、これが一般質問だけじゃなくて、本当は議会議員としてはいろんな面で討議していきたいということで前回、総合戦略会議をつくったらどうかという指摘をしましたけれど、これ

は否定されましたので、もうここではその話は置いておきます。

さて、同じことを繰り返しても仕方がありませんので、財政問題に移っていきます。財政が今回、平成30年度の決算を見て予算編成会議、これが出ていますけれども、１ページと２ページのところ、重要な文面が本市の財政状況で、市長が出してきた書類であります。これも平成30年度決算は12月でやったわけですが、これで実際、形式収支、実質収支、単年度収支、実質単年度収支ってわかりますか。実際上はそこを論議せないかんのですよ。でも、ほとんどそういう時間は決算委員会でもそこまで私もやりませんでしたけれども、実質収支は９億9,000万円ぐらいの黒字なんですよ、10億円ぐらいの。ああ、すごいねという話でしょう。

ところが、それは実質的には、ここに書いてある、市が書いている。平成30年度の普通会計歳入歳出決算は単年度収支が１億6,800万円の黒字となったが、財政調整基金５億5,000万円の取り崩しなどにより、実質単年度収支は３億844万4,000円の赤字となったと、そういうことですよ。実質単年度収支ってわかりますか。これが一番大事なんですよ、決算で調べていく上では。当該年度の財政分析です、これは。収入が幾らあって出ていったのが幾らかと、そういうことではなくて財政の動きで取り崩しが幾らあったか、前年度と比較してどうだったのか。これが30年度はよくよく見ると３億円の赤字だったんだと。これを審議していかなきゃいけないのに何人の人がこれを理解しましたかね。行政の方はどうですか。知っていますか。これが一番大事なんですよ、実質単年度収支を調べていく。

そして、その中で、今度は予算を編成していくときに財政の動きというのがあるんです。前年度を比較しながら、どれだけのものが入ってくるか。そして、先ほど言った今回の復旧・復興、特に復旧ですけれど。復興まで入っていませんから。復旧のために幾らぐらい国から来て、そしてうちが単独債としてどれだけ出していかないかんのかというのが出てきます。その中において財調基金というものを取り崩していかなければ……。どこの家庭でも一緒だと思うんだけれども、それが大事なんです。

これが平成29年度、平成30年度に――平成29年度に約70億円の交付金が特別に来ましたから、これを２年間に分けて財調基金は約40億円という決算が出て、当初予算には残念ながら９億円という、わかりますか。決算で最後に40億円が出て当初予算に９億円を組んでいるんですよ、財調基金を去年までは。どうしてと疑問を持ちませんか、これは。当然その後に災害復旧その他で交付金が来たり、そこをまんぐりながら財政課がやっていって、最終的な帳尻合わせで約40億円の財調基金をつくるという話になっとるわけです。それがいつまで続くかというのが、私が言う財政見通しのきょうの話。だから、当初予算は組めましたと。

市長、今の私の話を含めて今回、平成30年度決算を含めて当初予算が出てきましたが、この交付金やらの流れ、ヒアリングも受けていると思いますよ。私、これだけきょうの一般質問のために資料を市からもらいましたから。ただ、一々この数字は部課長には聞きま

せんよ、私の頭の中に入っているから。一生懸命、今回は普通の一般定例議会よりも倍勉強しました。これだけいっぱいあったんです。いろいろ読まないけなかった。この資料を集めて課長、係長が持ってきたものを私は私なりに分析して、じゃあこの数字に基づいて今後どうしたらいいかというのを、きょう今やろうとしているわけです。

市長、その平成30年度の流れ、交付金の流れ、そして今度、当初予算をつくっていく編成に当たって、あなたがトップとしてこの財政の流れを……。この当初予算の審議だけではありません。私の狙いは来年、再来年がどうなっていくか。その中で後でも言いますけれど、大型事業をどうしていくんですか、ほかの事業はどうしていくんですかというのを聞こうとしているんです。いいですか、当初予算審議をしているわけじゃないですよ。ただ、今回はここまでですから。この流れが交付金と財調基金のやりくりをどうするのか、どういうふうに市長は捉えているか、そこをまずお聞きしたい。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　議員が御指摘のように令和元年度、今年度ですが、当初予算額は461億円、うち災害関連分が198億円、必要な財源29億円を財政調整基金38.2億円より取り崩しをいたしまして、年度末見込み残高は9.3億円という状況でございました。御指摘のとおりであります。

その後、残高は今年度であります９月、12月の補正後では14.2億円となり、３月補正で特別交付税12月交付分が18.7億円、そしてまた災害復旧事業債などの予算を計上いたしまして、財政調整基金の令和元年度末残高は39.6億円となったところでございます。

そして、令和２年度の一般会計当初予算については、一般会計予算総額414億円、うち通常分――災害を外した分であります――約288億円、災害関連分が約126億円を計上いたしまして、この災害関連分に伴う財源として25億円が必要であると。財政調整基金などの取り崩しで対応をしているところであります。この災害関連分は平成29年度の発災以降、平成30年度、令和元年度と二度の当初予算時よりも事業費や財源の縮小はしているものの、いまだ大きな予算を必要としているというのが現実であるということであります。今後の財政状況についても、災害関連事業の進捗が大きく影響をしてくるものということで捉えているというところであります。

歳出でございます。災害復旧の補助事業費は、おおむねでありますけれども、見込まれつつある状況に来たかなというふうに思っておりますが、災害に関連します単独事業、これにつきましてはいまだ見込むことができないと。はっきりと、こうなるんだといったことができないような状況であるというふうになっておるところであります。そしてまた、毎年のように発生をしております災害の影響も未知数であります。今後も、災害復旧事業に従事する人件費等が必要になってくるというふうに見込んでいるところであります。

歳入の特別交付税につきましては、これまでは確かに70億円、40億円という大きな特別交付税をいただくことができましたけれども、今後についてはこれだけ全国的に災害が発

生をしてきたということ、それから朝倉市に対する、いわゆる特別交付税の連年災、これについてもいつまでも期待ができるものではないというふうに厳しくシビアに受けとめているところでございますので、先ほど申し上げましたように何とか将来の朝倉市を発展させていく、これには財源が必要でありますから財源確保についてはしっかり取り組んでいくと。

それから、議員がおっしゃっておられた、ふるさと納税、これにも努力をさせていただいて、大きく今年度は伸ばすことができておりますので、来年からについても全庁を挙げてしっかり財源確保に取り組んでいくということであります。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　皮肉ではなくて、市長、よいマニュアルができていますね。今のをそらで述べるということができますか。それぐらい入れておかないかんのですよ。今のは読んだでしょう。それをその場で報告する。皮肉を言っているんじゃない。

私は、きのうも戦国史をやってきましたよ。歴史講座で毎月１回やっているんですけれども、今、室町時代から戦国時代まで移っていくところです。知将・名将と言われたものは数字に強い、武田信玄、甲陽軍鑑を読んだらいい。全て自分の地元の中においてどれだけの兵力であり、どれだけの財力であり、そして地域地域においてどういう人たちが豪族としておってと、全部調べ上げる。そして、その情報を自分の中に持ってくる。これは武田信玄だけではない、知将・名将と言われた人はみんなそう。そういったものを自分の中で抱えながら、部下に調べさせて審議をさせて最終結論を御館様が出していく。これが戦国時代の生き残りの一つの生き方、策です。

だから、部下その他が書いたものをそのまま読んでいくだけではなくて、自分自身が今のを――まさに、今度は私が見ないで質問したらわかりますか。災害補償のあれが126億円ですけれど、ここはポイントですよ。今いみじくも言った、みんなもそうなんだけれども、これから先、単独で事業をしていくのは災害復旧ですよ。どれくらいになるかわからない。今先ほど市長が申した、まさにそのとおりなんですよ。だから、財政の見直しを簡単にはできない。いかに、何が起こり、何が入ってくるかというのがよく理解できない令和元年、令和２年なんです。

中野副市長、今はそういうこと。それが日本全国で財政的な不安と何をしていったらいいかということが一つの大きな課題になっているわけ、それで当面の問題プラスアルファが出てきます。これはどうもこの問題だけでやっていかないと間に合わん、もう煮詰まらんものになりよりますな。いいですか、当初予算で出てくる現在出てきているものが先ほどの話でわかりましたか、市長が読んだことで。これを一遍聞いてわかったら大したもんですよ。私、この資料をもらって説明を受けて自分で分析して、やっとこどっこい今話ができるくらいに難しい。動いているわけだから、金は。

先ほど平成29年度、平成30年度、今度はようやく18億6,000万円ぐらい入ってきまして、

もう一つのお金で災害復旧単独債というのがあるんだね。平成29年、平成30年、平成31年、令和元年、これが決め手なの。ところが、これが災害復旧予算126億円に対して今度、補正予算で出てきますけれど、補正で。これがなかったら財調基金から取り崩さないかんわけですよ。ところが、それが３年間続いてきた。これは非常によいことだ。しかし、これから先どうなっていくかわからないというのが現状。もう九州豪雨は、大きな豪雨の中のその単なる一つでしかないというのが国の見方。これは市長がそういうふうに私たちに説明したんだけれども、その中でどうにかして財源を確保していかないけない。

今回、私は２つ褒めてやりたいんです、職員に。一つは、ふるさと納税の担当課、それから保険のほうの収納係、これは94.何％とこの前出たけれども、ものすごい収納をふやさないかん上げないかんと。とんでもない。私、何十年やってきた、これを担当と。94％を96％に伸ばすというのは大変なことなんですよ、もう最後のぎりぎりのところだから。50％を10％伸ばすんじゃないんだから。それを96％まで持ってきた。職員は本当に一生懸命に頑張っておる。いや、そこだけじゃないですよ。それは数字で出てきたところだけ。

それから、ふるさと納税も私、９月の段階で言って非常に少ない。それが今度、キリンビールの恩恵も含めて――８割がキリンビールなんだけれど、十五、六ぐらい出てきた。それを組み替えしている楽天やなかった、何とかかんとかであけたら１番に朝倉市が出てくる。知恵が出てきた。やっぱりこうやって論議しないといかんのですよ。そうすると、市民も議員も、やる気が出てくる。議員は……。そういうことを言う立場では私はないんだけれど、職員。市民も、やっぱり、そうかと。やればできるんじゃないかというところをやっぱりＰＲしていかないかん。私は足を引っ張っているばかりじゃいられない、褒めるときは褒めているんだよ。

中野副市長、わかりますか。褒めるときは褒めているんですよ、私も。ただし、財政的なものから見ると、この126億円という、ことしの令和２年の災害関連予算案のときに何億円単独で要ると覚えていますか。市長が言ったんだけれど、それをぱっと見てどうなってこうなってとわかったら本当に大変。ここは私、もう一回聞いたから担当課に。25億円ですよ。市の単独で要る金が。じゃあ、その金はどうするのという話になるわけ。じゃあ、ここに財調基金を取り崩してくるというわけですか。だから、そういうときに財調基金は要るわけ。そこは今回、今褒めたふるさと納税がかなり増額になったんで地域振興基金にこれを入れて、そして４億円を継ぎ足したわけ。

そうすると、21億円の財調基金と４億円の地域振興基金、財源をふるさと納税の増額分を入れて18.7億円。この皆さんが今度、当初予算の令和２年の財調基金、ここは大事なんですよ。ここを見ていかなきゃ。ここが18.7億円、前回は9.3億円だったのが18.7億円になったという、すばらしい数字が出ているわけ。本当言うと、これはすばらしい数字ではない。当初予算で財調基金は、本来は40億円が必要なんですよ。これは10年前に私がこの問題を提起して、近隣から聞いて県にも聞いて、この朝倉市の規模、その当時は甘木市だ

ったんだけれども、それから朝倉市になって大体そう変わらないんだけれど。

中野副市長は、よく地方税、そのほうが詳しいと思うんだけれど、一番いいのは最低でも60億円ぐらい持っとったらいいという話だったんです、その当時。それを目指していた。結果的には金が要るからと、40億円を目指そうということで40億円をベースにして、現在もその線で来ているわけ。財政課もその線で大体こう調整をしてきている。その中にこれだけの金が要って財政調整基金が18.7億円と令和２年で出てきたと。その内訳は今言った中身、これは確定的に来年以降に来るものではない。あくまでも令和２年の当初予算をつくっていく中で出てきた前年度、前々年度の対比の中での収入。

ところが、今、市長が言ったように、ここからが問題やね。何が起こるかわからないと今、市長が言ったわけです。これから先、復旧・復興を第１番目にやる、これは誰も反対しない。でも一緒に地域浮揚という地方創生をやっていかないかんということで私はビジョンを出せと言っているわけ。復旧・復興がここにあって地域再生がここにあるというんじゃないと。これは並列ですよ、今現在、もう２年たってきたんだから。それは復旧・復興が１番目に第一義でやらないかんですよ、一丁目一番地で。でも同等のような形でこれからつくり上げていく、そのためには金が要るという話になってくる。復旧に対しても、まだまだ不確定な状況。

皆さん、御存じですか。大体３年たって――復旧活動が３年で、でも今回は赤谷川が５年で７年、２年オーバーしてできますから。通常はそこは皆さん、御存じですね、お金の話。通常、平成29年、平成30年、令和元年の３年で普通は終わるんだけれど、今回、国の措置は非常にオープンマインドで４年間を出していこうとしている、令和２年まで。ところが、令和３年になってくると、さあ、どうなんだというのがまだ不確定事項。常に綱渡りで動いているわけ、これが来てから幾らの話なの。それで、財政課とも話をしても、ちょっと９月段階、待ってください、12月段階、待ってくださいで、今回はまあまあの線で来ました。じゃあ、来年以降、確信が持てるかといったら、それは持てませんと。当たり前でしょう。私たちが金つくるわけじゃないんだから。そうすると、何が問題になってくるかというのが出てきます。

今の話は、市長がマニュアルに書かれたものを読んだものを私なりに分析したんだけれども、これでもなかなか皆さん方は、私これは……。議員の皆さんじゃなくて市民の皆さんでしょうね、議員の皆さんに言うと失礼だから。市民の皆さん、それから録画で聞いている人もいるみたいだから、いいですか、これだけ厳しいと。

じゃあ、その中で、今度は歳出の面を見ていきましょう。市長、さっき復旧の問題は一定程度、国が当初決めた予算の中で今動いていますと、でしょう。３年計画、５年計画、赤谷も。それとプラスアルファで単独事業が出てきます。それに対して国が措置をしてくれます。その財源の一部を市が肩がわりします。それがこれから先、令和２年、令和３年、令和４年にどのような状況になってくるかはわからないという話が今出たと。それは非常

に大きなポイント。だから、財源は確保しておかなきゃいかんのですよ。その中心が財調基金、地域振興基金、減債基金。しかし、実際上使うのは財調基金、地域振興基金なんだけれども、最低限の規模で今、朝倉市は置いておくということです。

これから先、よその市を見ると、災害復旧のための予算は結構ついている。この前、東北へ行って石巻市やらその他を見ましたけれども、それはすごい金がやっぱり出てきています。だから、それを確保できるかどうかというのは、あのときはあすこしかなかったわけだから、災害地が、大きいところが。今はもう日本全国、災害地ばかし。

この中で、市長、今これから先、いいですか。大型事業、市庁舎だけじゃありませんよ。その他に要るものがあるとすれば令和２年、令和３年、令和４年、令和５年、この５年か10年の間にしていかないかん事業があるんですけれども、おわかりですか。100％知っとかないかんですよ。どういうものがありますか。市長として知っておかないかんでしょうが。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　大型事業で……（発言する者あり）

大型事業以外……（発言する者あり）

○議長（堀尾俊浩君）　ちょっとお待ちください。今、回答があっていますから。

○市長（林　裕二君）　合併特例債を活用する事業ということでお答えをさせていただきますが……（発言する者あり）

庁舎の建設、それから十文字公園整備、それから秋月小中一貫校、それあたりを外しまして、いわゆる合併特例債を活用する予定につきましては、朝倉市道の整備、甘木地区中心市街地整備、これについてはかなり進捗を見たということであります。それから、都市計画道路馬場口大町線、これも最終段階に来ていると。（発言する者あり）

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　それは現在進捗していて結果が出てきたところの話。これから先の話ですよ、いいですか。皆さんもそうと思うんだけれど、これは堀内元副市長が財政課長のときに財政の見直しを出してきたわけ。後でもやろうと思っているんだけれど、時間があるかないかわからないんだけれど、これはすばらしい。私、今これを見るたびに自分なりに財政が今後どうなるかというのを見て指標にしているの。

そのときに堀内――亡くなった――課長時代だったんだけれども、これから朝倉市が取り組まなければならない事業という形でこれと一緒に添付してきたわけ、大型事業の。これは全員、今、新人議員以外の人、その当時おった人は持っているわけ。試算表１・２・３といって、これが大型事業が入ったり、入らなかったり。試算表１・２・３、立派なもんだよ、これは。現在つくられるものでは。完璧ではないけれども。

これはなぜ立派かというと、大型事業をしたらこうなりますよ、そのときの財源を財調基金から40億円つかったらこうなりますよ、10億円しか出さなかった場合はこうなります

よというのが、１・２・３の表として出てきているわけ。非常に参考になるわけよ、これから先、将来。あと19分しかないから、この時間が足らなくなってきているけれど、いいでしょう。ここは重要なところだから。

それで、もう私は言いますよ。そのとき出てきたのはし尿処理場、これは大体７年おきぐらいに改修していかないかんの、塩分その他があるから。これがそのとき出てきた問題の一つ。

それから、梅香苑、これは９月議会か12月議会でやった、サンポートの改修、これはあと５年先ぐらいにもこの話が出てくる。負担金を朝倉市は出していかないけない。これが大きく大型で、先ほど市長が読んだ今までこう見てきて横から見せてもらっているもんじゃなくて、これはもう長年、後ろにおられる方もそのような話は知っていると思うけれど、この３つ大きく出てきているんだね。サンポート、梅香苑、衛生センター、これの改修工事、それが一つ。

もう一つは、これは前から言っていて、堀内元課長、現職のそのとき係長の佐々木課長もおるけれども、その名前は出さない形でやりますけれど。彼が私の一般質問の話の中でも市長施政方針、この前出された中の３ページに、市内の10地域コミュニティ活動を円滑にするため、引き続き活動助成交付金と合わせて各コミュニティセンター施設の営繕などを行ってまいりますと書いてあるのね。これですよ。これは地域浮揚をしていかないかんときに――今、私は甘木町に住んでおりますけれども、これに私も少なからずかかわってきた中の一人ですけれど、これは成功例ですよ。今、午前中は満杯ですから。お昼も夜も使っている。子どもが集まってきている、キッズが。こういう施設は朝倉市の中には、ここにしかないと思う。みんな金払ってやっている、私たちのコミュニティの中ではただですけれども。

しかし、こういうものをつくることによって活性化に、あすこが拠点になっているわけ。こういう地域の今どんどん人口が減ってきて活性化ができないときに少なくとも、できるところはシンボル的なコミュニティの施設を改修していこうじゃないかと。それはルールはありますよ。いろいろルールを知っていますよ、私たちは甘木町でから、僕は３万円出したんだから、あれをつくるときに。だから、ルールはあるんだけれども、そういうものを飛び越えた形で一段上になって新しい地域のコミュニティをつくっていくために地域のシンボル的なものをつくっていこうと。それがコミュニティセンターであり、施設だろうという話をしていたわけ。それを彼は項目に出してきてくれたわけ。

ところが、それはもうほとんどこの５年間、何もないままに、さっき言った、どおーんと来ちゃったから災害のほうに行っちゃって、もう金がない金がないと。ここに営繕という言葉が出ているんだけれど、この営繕という言葉のとり方はちょっと私もここで言葉のやりとりをする時間もないからやらないんだけれども、要するに地域のコミュニティを活性化していかなければ人口はますます減ってくる。それだけじゃない。もちろん、学校教

育もそうなんだけれども、その教育というよりも生徒がふえるような施策を打てという話ですよ、本当は。何かかんか教育委員会で考えたって簡単にはできない。だから、やっぱり地域の施設をつくっていく、その中の一つとしてこれが財源として必要になってくるんじゃないかと。

それから、まだ言えるよね。この防災関係も出てくる、いっぱい後で出てくるんだろうけれども、その防災無線、あれもなかなか私たちも聞きにくい。だから、これも何かもう一回見直そうじゃないかという話がやはり従前出てきました。だから、そういった話の中にまだ地下に埋設されているものがどんどん悪くなってきているとか、もう年月がたってと、出してくればいっぱいあるわけ。だから、もう今、特化されているのが市庁舎をつくるか、どこどこの大型事業をどうするか、勇気ある決断をするかという話なんだけれども。

市長、これは私が今言った大型事業という言葉を使っていいのかわからないけれど、これから朝倉市が抱えていく事業の大きなものの一部です。市長は、それをよく十分に十分に……。言われたらわかったと思うんだけれど、それはお金が要るんですよ。どこかの時点でせないかんわけ。だから、そういったものにどう向かっていくのかを答弁願いたい。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　大型事業につきましては、所信でも述べさせていただいておりますけれども、市庁舎につきましては、私は必要であるという……（発言する者あり）基本的にそういう考えを持っております。その上で大型事業について今年度中に判断するのかしないのかということにつきましては、先ほどから申し上げておりますように、災害等の経費を考えたときに今年度中にお示しをするということは、今の段階でははっきりと申し上げることはできないと。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　市庁舎の話はその他、後の話で出てくるんですよ、私の。時間が余りないけれど。それはそこばっかりを話をしているから、違うでしょうと。これから先、朝倉市が財源を確保していかなきゃならんという私が理由を説明しているのは、今非常に歳入は綱渡りの状況で来ている今日、大型事業といわれる、市庁舎を含めたものじゃない、先ほどサンポートだ、梅香苑だ、衛生センターだ、それから地域コミュニティの改修だ、そういったものがあるにもかかわらず、今後の財政運営をどうしていくかという非常に私は厳しい……。市長はそこにおるんだと。ただ、勇気ある決断をするとか何とかというのは、今そう言われたから私も安心したけれど、そんなに今年度中にやれるような状況なんですかと。

国の流れというのは令和２年までを一つの目途に流しながら九州豪雨、そしてそれにプラスアルファをするのかしないのか、こういう状況の中に来る。しかも、災害復旧単独債あたりが３年間は来ているけれど、今、地方交付税交付金は１億円が今回の令和２年でふえたけれど、臨時財政対策債は8,000万円、約１億円プラスマイナス。この流れはちょっ

となかなか難しいのでここではやらないけれども、結論からすると、そういう動きになっている。財源の一部として多く当局が言ってきた臨時財政対策債も非常に厳しくなってきていると、最高時点の半分に今なっているわけだから。それは交付税との関係とか市税の関係あるいはもっと難しい基準財政需要額とか、そういった今後の国の判断とかで決定されてくる。ここで述べる話ではない。

しかし、結論からすると厳しい財政状況になっているときにこれから先、目を向けていかなきゃならんのは当初予算で、こうですよ、こうですよという話も重要かもしれんけれども、私の頭の中には来年以降も含めて、じゃあ梅香苑をどうするのか、そういうのが来たらどうするのか。サンポートは確実に来る。そして、もっと一番大事なのは地域コミュニティを浮揚させていく方法は何かないのかと。そのためにどういう財源を使っていったらいいのかというのを私たち議会は住民代表として考えて、かんかんがくがくやらなきゃいけないんだけれど、そのかんかんがくがくやるのは、きょう、私、１時間――きょう、70分か、この時間しかないという、これが現状です。

もっともっと議会は市長を呼んですごい話をするとか、昔はやっていたんです。しかし、ほとんどの人がそういう昔の話は知らない。この前もルールの問題でもめましたけれど、でしょう。そういう先人がつくってきた議会のあり方も含めて、それは議会だけじゃなくて執行部との関係において、先ほど言ったチェックアンドバランス、抑制と均衡、２番目の一緒に頑張っていこうというところの分野で言えるわけですよ。だから、そういう問題を抱えていかなきゃならんと。

それで、これは一つ先ほど出てきたんだけれども、市庁舎だけじゃなくて、新市建設計画を国からつくれと言われていますよね。そして、そこのときに財政の見直しもしていく、財源計画、財政計画もしていかないかんのだけれども、これは総合政策課との総合戦略の中で出てきた話で、大体９月から12月ぐらいに新市建設計画、それから財政計画をつくっていく計画がありますというふうな形で私のほうにもお知らせはいただいております。しかし、私は、これは先ほどの話からすると、非常にまだ状況が不安定な状態の中で結論を出していく―――一つのゴーサインを出していけば、もう後が取り返しのつかなくなる、そこだけが特化されてしまうんじゃないかという危惧を持っています。

だから、市長は、今の段階で今年度中にやるかどうかということを結論を出すわけにはいかない、といみじくも言われましたので、私は最低でも１年間、来年度に回して、そしてじっくりと令和２年の検証結果を踏まえた上で、令和３年あたりから具体的に話をしていくべきだと思っていますが、いかがですか。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　先ほど答弁を申し上げましたように、今年度中いつできるかといったことは言えない。来年度中にということにつきましても、ここで名言できるというふうには言えないと。ただし、復旧事業がこの令和２年、令和３年とここは進んでいきます

ので、そのときの財政状況等を見ながら判断をしていきたいと。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　じっくりやらないかんて。私も財政を何十年やってきた人間として、朝倉市の将来を考える人間の一人として、不確定状況の中で突進していくというのは、こんなに危険なことはない。市民が納得できないと思う。市長を支えてくれている人たちはオーケーオーケーと言うかもしれんけれど、少なくとも私はそういう軽々というよりも、勇気ある決断というのは撤退も含めて前進も含めて修正も含めて、いろんな意味で十分な検討の上になすべきであるということを言っておきたい。

もっともっとやりたいんだけれども、もう通告時間、農業問題については資料をいっぱいもらいました。おかげさまで勉強させていただきました。読みました。

就農人口、今、朝倉市、市長は農業問題の専門家だと思うんだけれど、就農している人口、何名ぐらいだと思いますか。わかりますか。資料を見なくても、あなたは知っとかないかんでしょう、だって出しているんだから。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　これは平成27年の統計資料ということでしかお答えできませんが、3,000人と。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　それで、私もその計画審議のときに言ったんですよ。平成27年じゃいかんて、５年前。そして、その10年前は6,500人だったの。いいですか、それが4,000人ぐらい減っているんだ。５年間で1,700人減っているの、市の人口が。

そしてまた、2015年までの５年間に1,300人減っているんです。そして、平成27年が3,000人。単純に換算、算数計算、小学生の。５年後、2020年、ことし、これを農林業センサスで調べたらどうなるかと。通常で行くと1,500人近くになるんですよ、就農人口が。それを出せちゅうたけれども、実際上それは農林業センサスで出てこない限りは無理ですということで、何回言ったってだめだったんだけれども。そのかわりに認定農業者とか新規就農者とかいうのを一生懸命、出してきた。やっているんですよ、担当課は。資料をつくって一生懸命。私のところに持ってきてくれたりしている。ところが、それだけじゃ何の意味もない。もともとになる就農人口で第一種、第二種もちゃんと調べていますよ、こういう資料がこんなにあるんだから。

私もこの時間やりたかったので非常に燃えていたんだけれど、農業のエキスパートの１番議員が次にこの農業問題をやるということですので、そのことについては私以上に十分な討議ができると思うので、農業問題は次にバトンタッチをいたします。

もう一つ、商工業の問題。商工業の問題もそうなんですよ。これは資料を出せと言って出してきたら、今これは20人以上の企業の中の従業者数なんですけれど。市長、どれぐらいだと思いますか、朝倉市で。大体ヒアリングを受けるときにこういった俺たちがもらっ

ている資料とか、そうじゃなくても討議せな、頭の中で押さえておかないかんですよ。自分のところの兵隊が何名おって、鉄砲が幾つあるか知らない部署はだめですよ。それに基づいて戦略を練るでしょうが。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　朝倉市の……（発言する者あり）

平成30年、事業者数150、従業員数１万1,670人。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　それは20人以上が１万1,000人、平均です。それはずうっと一緒だから、平成27年、平成28年、平成30年。しかし、20人以上の企業、会社というのは、僕は甘木に住んでいるけれど、何件あるのかな。ほとんどない。だから、よそのところで調べて150件とか。

でも、さっき言ったように２つあるのね、私たちの使命は。朝倉市全体をどうするかという話と、地域地域の問題をどう解決していくかというのが私たちに課せられた課題だと私は思っている。だから、甘木町議員としては私の発言はそうしないけれども。朝倉市全体を考えながらいつも話をしているつもりだけれども、頭の中には立石も含め、安川も含め、蜷城も含めと。各地区の浮揚がどうなっていくのかなというのが全部この資料の中に地域の問題として捉えて、教育委員会からも実はこの中に資料がばっちし出て、子ども未来課からもゼロ歳から６歳までの現在の資料まで全部入れています。それで、今回、入学生が何名で卒業生が何名で、令和２年には小学校が全体で何名、地域が何名とまで出しています。ここに全部持っています。

もう一つ、そういうことをやっぱり分析しながら対応していくというのが、行政の仕事じゃないですかね。総論的にこれをばあーんと出したからちゅうて、目指します、図ります、頑張りますという話じゃあ話にならんと。だから、それの具体政策を出していくちゅうのが、市長を中心とした――だから、部課長に聞く必要はないんですよ、私も全部資料をもらっているから、でしょう。私のここの論争というのは、それをもとにして分析して、どうやったら浮揚していくのか、どうやったら解決していってと、政策論争ですよ。その最終責任者は市長なんだから、あなたが知っていなきゃいけない。１万1,000人。ところが、20人未満がほとんどだと思うんだけれど、その従業員数がわからない、現在の段階で。でも甘木町で今悩んでいる、立石も一緒だと思うんだけれども、商店街が多いと思うんだけれど、20人以上おるところがそんなにないのにそれに対する手当がない。

それで、時間が余りないので最後に、これは福岡県が出した中小企業振興基本計画というのが出ているんですけれど、市長、知っていますか。知っている。中野副市長も当然知っていますよね。これは県が出しているんだよね。

傍聴席の皆さん、今回出されてきたのが農業振興基本計画ですよ、観光基本計画ですよ、それから子ども未来のための計画ですよ、福祉計画。ところが、中小企業計画は全然出て

こないの。まだ現在も考えられていない。県は出しているの、2019年から2021年度のこういう資料を。これを私も多少ぱらぱらと見ました。一つの方針ですよ。だから、こういうものを含めて、中小零細企業に厚い政策をやると言っているんだから、それについて市長、この朝倉市の計画を出したらどうですか。

○議長（堀尾俊浩君）　市長。

○市長（林　裕二君）　福岡県の計画につきましては、県議会で多くの議論の末、条例をつくられたと。これに基づいて計画ができているという認識でございます。すなわち、福岡県は県内の政令市を恐らく外した部分の中小企業振興事務所が……（発言する者あり）

朝倉市で現在は、これぐらいの規模の市で計画を意味があるかどうかというのをまずは研究する必要があるというふうに判断をいたします。県内でつくっている市が具体的にあるのかどうかです。そうではなくて現在、今やっていますように福岡県がいろんな施策を持っていますので、市内の商工団体等と協議をしながら、そして中小企業の後押し、振興を図っていくという形を強めていくほうがいいんではないかというふうにも考えられますので、現在のところ、その考えは持っておりません。

○議長（堀尾俊浩君）　16番。

○16番（実藤輝夫君）　やっぱりこれだけ具体的な基本計画・振興計画が出てくる中で、今のような答弁だけじゃいかんと。検討しますとか具体的に調査させますというのが……。中小企業零細企業で言えば大体今、計算では２万人近くいるんですよ。２万人以上、朝倉市の中に携わっている従事者が。だから、そういった人たちのためにもそれをつくるべきだと。それは今の段階ではない。

あと９秒ですけれども、市政報告について、これは結論からすると、市長は市政報告会を各地区のところでやるべきだという結論です。以上、終わり。

○議長（堀尾俊浩君）　16番実藤輝夫議員の質問は終わりました。

暫時休憩いたします。午後２時20分に再開いたします。

午後２時10分休憩